

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報

第5号

果樹

発行日 平成22年 7月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

りんごの肥大は回復傾向！見直し摘果を！
ぶどうは品質向上のため、適切な着果管理を！
8月は高温継続の予報！早生品種の適切な着色管理を！

りんご

1 生育状況

定点観測結果(表1)による果実肥大(横径)状況を県平均で見ると、平年をやや下回りますが、春先からの生育の遅れをかなり回復しています。

表1 県内の定点観測ほ場における果実肥大(横径)状況(7月21日現在)

(単位:mm)

市町村	地区	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
		本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)	本年(H22)	前年(H21)	平年	前年比(%)	平年比(%)
岩手県農業研究センター		62.7	63.8	64.4	98	97	53.8	59.7	63.4	90	85	53.5	56.6	56.4	95	95
岩手町	一方井	54.8	59.7	60.6	92	90	55.9	59.4	61.0	94	92	54.8	56.9	53.3	96	103
盛岡市	三ツ割	63.3	62.5	62.6	101	101	59.3	60.3	62.7	98	95	52.7	56.4	56.0	93	94
紫波町	長岡	59.9	64.5	66.4	93	90	64.2	65.7	64.3	98	100	57.0	60.8	57.8	94	99
花巻市	中根子	65.6	70.7	63.6	93	103	65.4	67.9	65.2	96	100	54.5	61.2	55.6	89	98
北上市	立花	64.0	74.3	68.3	86	94	61.0	72.2	68.1	84	90	53.4	63.1	60.9	85	88
奥州市	前沢区稲置	66.3	72.7	66.8	91	99	62.6	64.5	64.7	97	97	60.8	61.0	58.9	100	103
	江刺区伊手	58.1	63.5	60.9	91	95	57.6	62.0	62.5	93	92	50.2	54.6	54.0	92	93
一関市	花泉町金沢	57.9	67.5	64.8	86	89	61.7	64.7	63.6	95	97	51.4	58.0	55.1	89	93
	大東町大原	61.3	64.5	63.3	95	97	57.7	63.2	61.4	91	94	52.6	59.8	56.0	88	94
陸前高田市	米崎	57.6	66.8	64.3	86	90	56.3	60.1	61.2	94	92	46.3	54.3	55.3	85	84
宮古市	崎山	57.1	62.5	60.4	91	95	56.0	62.6	62.2	89	90	51.5	60.6	55.7	85	92
岩泉町	乙茂	52.7	60.8	61.6	87	86	59.3	62.9	57.5	94	103	49.9	62.3	54.8	80	91
洋野町	大野下長根	55.5	58.9	55.8	94	99	53.8	58.4	57.0	92	94	51.2	53.9	50.5	95	101
軽米町	高家	58.0	63.9	59.2	91	98	57.4	58.6	59.6	98	96	47.8	55.1	50.4	87	95
二戸市	釜沢	56.1	63.7	61.8	88	91	54.4	58.5	62.5	93	87	52.1	58.3	54.0	89	96
県平均値(参考)		59.2	65.1	62.7	91	94	58.8	62.7	62.2	94	95	52.4	58.4	55.2	90	95

※ 県平均値に農研センターのデータは含まれていない

2 管理作業

(1) 摘果の見直し、誘引、徒長枝の整理

仕上げ摘果がほぼ終了し、これから見直し摘果になります。着果の多い部分や病虫害果、傷果などを摘果して行きます。「ふじ」では、生育不良果が見えてきますので、随時摘果します。

樹体管理では、枝の誘引、徒長枝の間引きなどを行い、樹冠内部の日光や薬剤のとおりを良くします。また、台風などに備えて、支柱との結束の確認、圃地の排水対策を行いましょう。

(2) 早生種の着色管理

- ア 早生種の葉摘み開始時期は、収穫予定の10～20日前です。
- イ 果そう葉を中心に、最初は軽く2～3枚程度摘みます。
- ウ 陽光面の着色が進んだら、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを行うとともに、適度な強さに葉を摘みます。必要以上の葉摘みは、逆に着色が進まないのを避けます。
- エ 着色適温は15～20です。**残暑で最低気温が20を越える日が続く場合は、いくら葉を摘んでも着色が進み難くなりますので注意してください。**

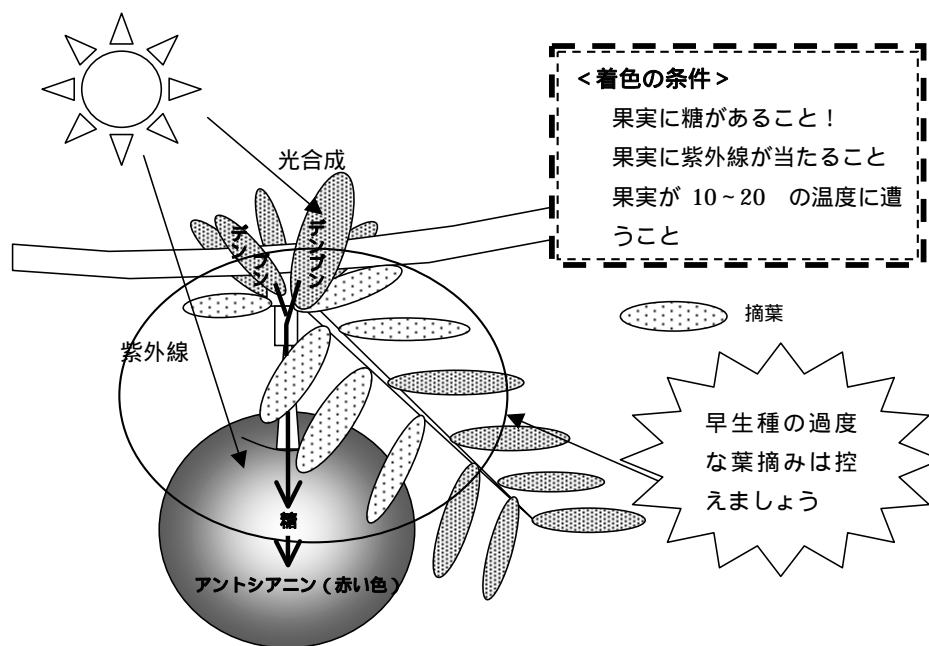


図1 りんごの着色の模式図

(3) 落果防止剤の散布

収穫前落果しやすい「つがる」や「きおう」には、落果防止剤を上手に使用して落果を抑えましょう。使用法は表2のとおりですが、登録内容を確認のうえ使用してください。特に「きおう」の内部裂果で早めに熟す果実の取り扱いは、農薬安全使用基準に違反しないよう厳重に注意してください。

表2 落果防止剤の登録内容(一部抜粋)

対象作物	商品名	使用基準		使用方法 散布量・濃度等	使用上の留意事項
		使用時期	本剤の使用回数		
りんご	ストップール液剤	収穫開始予定日の25日前～7日前	1回	1,000～1,500倍 300～600L/10a	(1)落果防止効果は散布後5～7日目から始まり、3～4週間目まで持続する。 (2)展着剤は不要。 (3)登録上の使用回数は2回以内である。
	マデック	収穫開始予定日の25日前及び15日前	2回	6,000倍 300～600L/10a	(1)持続性が弱く、落果が始まると止める力はない。 (2)展着剤を加用する。
	ヒオモン水溶剤	収穫開始予定日の21～7日前	1回	1,000～1,500倍 300～600L/10a	(1)ヒオモン水溶剤は1回散布と2回散布では希釈倍数、使用時期が異なるので十分に注意する。 (2)2,000倍で2回使用する場合は、収穫予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから必要に応じて1回目の散布7～10日後に2回目の散布を行う。
		収穫開始予定日の21～14日前及びその7～10日後	2回以内	2,000倍 300～600L/10a	

共通事項

- (1)着色、熟期も促進されるので、過熟にならないよう適期収穫に努める。
- (2)薬剤が葉先からしたり落ちる程度に樹全体にむらなく散布する。
- (3)殺菌・殺虫剤との混用は避ける。
- (4)周辺作物にかからないように注意する。また、使用後の散布器具は十分に洗浄する。

(4) 新規落果防止剤（商品名：ヒオモン水溶剤）について

ヒオモン水溶剤の落果防止効果の発現は比較的早く、その効果は散布後2～3週間程度は持続すると考えられており、ストッポール液剤と同等の効果は期待できると思われます（表3、4）。

登録内容は表2のとおりですが、**希釈倍数によって使用時期・使用回数が異なります**ので、使用時は十分にご注意ください。

なお本剤の特性は未確認の点多いため、本県における効果的な使用法については、現在岩手県農業研究センターにて検討中です。

表3 ‘きおう’におけるヒオモン水溶剤の落果防止効果 2006(岩手農研)

供試薬剤	処理日 (収穫予定日前日数)	希釈倍率	処理回数	全着果数 (果)	累積落果率(%)		
					処理日～収穫予定3日	～収穫予定日	～収穫予定2日後
ヒオモン水溶剤	7日前	1,000倍	1回	328	1.2	3.7	4.3
	21日前	1,000倍	1回	353	0.3	6.5	7.9
	21日前さらに10日後	2,000倍	2回	238	2.1	2.5	2.5
ストッポール液剤	7日前	1,000倍	1回	233	3.0	4.3	4.3
	21日前	1,000倍	1回	254	0.0	0.4	1.6
無処理	—	—	—	216	3.2	31.9	50.5

表4 ‘つがる’におけるヒオモン水溶剤の落果防止効果 2005(岩手農研)

供試薬剤	処理日 (収穫予定日前日数)	希釈倍率	処理回数	全着果数 (果)	累積落果率(%)		
					処理日～収穫予定3日	～収穫予定日	～収穫予定4日後
ヒオモン水溶剤	7日前	1,000倍	1回	380	0.3	1.3	2.1
	21日前	1,000倍	1回	497	0.0	3.2	8.1
	21日前さらに10日後	2,000倍	2回	375	0.3	1.6	2.1
ストッポール液剤	7日前	1,000倍	1回	383	0.5	2.4	3.1
無処理	—	—	—	433	0.9	3.5	14.8

(5) 夏期せん定（わい性樹）

ア 樹勢の強い樹を対象に、8月下旬～9月上旬にかけて行います。

イ 側枝の上面から発生している30cm以上の直上枝を間引くほか、30cm以下の新梢でも枝量と混み具合をみて日光、薬剤が通る程度に適宜間引きます。

ウ なお、過大な夏期せん定は樹勢を弱めるため、紋羽病の発病誘因となることがありますので、発病の恐れのあるところでの夏期せん定は最小限にとどめてください。

3 病虫害防除

夏期は、斑点落葉病、褐斑病、果実腐敗性の病害（輪紋病、炭そ病等）ハダニ等の発生に要注意です。また、**カメムシによる被害果が散見されます。**よく観察して適期防除を行いましょう。

早生品種の収穫が近づいていますので、8月の薬剤散布は、**安全使用基準の収穫前日数をよく確認**して、間違いの無いよう注意しましょう。除草剤についても同様です。

ぶどう

1 生育状況

紫波町赤沢の定点調査結果（表5）における「キャンベルアーリー」の生育で、結実率は満開期前後に降雨が見られ、平年をやや下回った。なお、7月25日時点の新梢長、節数は、概ね平年並、房長は平年よりやや小さめ、果径は前年を上回っており、春先からの生育の遅れを概ね取り戻した状態となっています。

表5 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況 (紫波町赤沢)

調査年次	結実率 (%)	7月25日の調査時点			
		新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)	果径 (mm)
本年(22)	40.1	131.2	16.7	14.4	18.0
平年(平均)	46.6	132.4	17.0	15.2	17.2
前年(21)	31.3	137.6	17.9	16.3	18.1
平年差・比	-6.5	99%	98%	95%	105%
前年差・比	8.8	95%	93%	88%	99%

2 管理の要点

(1) 摘粒

果房の形を整え、品質を向上するため、着粒の多い密着房、裂果粒、病虫害果粒を中心に摘粒を実施します。

《1房当たり粒数の目安》

キャンベル、ナイアガラ・・・70粒 サニールージュ、ノースレッド・・・60粒程度
紅伊豆、ハニーブラック・・・30～40粒 安芸クイーン・・・25～30粒

(2) 摘房

果実の糖度や着色など品質を向上し、樹体の養分の消耗を防ぎ、翌年の花芽の充実を良くするため、適着房数を目標に摘房を実施します（表6参照）。

「キャンベル」では、最終的には一坪（3.3㎡）当たり、新梢数20本、着房数27～30房が基準となります。樹勢が弱い場合は、1房あたりに必要な葉数を参考に、葉数に応じて着房数を制限して下さい。

「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」などの大粒種では、樹勢をコントロールする目的で1新梢2房としている場合がありますが、そのまま着色期以降までおくと、着色や糖度の上昇が遅れ品質を損なうばかりではなく、樹体が凍寒害の被害を受けやすくなりますので、着色開始を目途に最終房数としていきます。

「サニールージュ」は大粒種に分類されますが、粒径は中粒種に近いため着房数、目標収量とも「紅伊豆などの」大粒種と「キャンベルアーリー」などの中粒種の間程度が適当と考えられます。

表6 ぶどうの収量構成要素

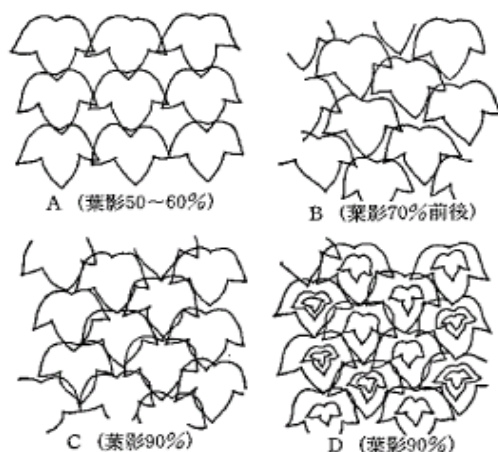
品種	新梢数 (本/坪)	着房数		目標収量 (kg/10a)
		(房/坪)	(房/新梢)	
キャンベルアーリー	20	27～30	1.35～1.5	2,200
紅伊豆等	15	10～12	0.67～0.8	1,200
サニールージュ	19	16.2	0.85	1,700

(3) 新梢管理

棚面を明るくして果房の着色を向上し、樹勢をコントロールして養分の浪費を防ぐため、勢力の強い新梢を中心に間引きや摘心を行います。

硬核期以降（7月下旬以降）に実施しますが、[1] 赤色系品種、[2] 紫色系品種、[3] 白色系品種の順に棚面を明るくするようにします（図2参照）。

短梢栽培では、葉数確保のため副梢についても基部から2～3枚の葉を残して摘心していきます。しかし、混み合っている場合は適宜間引いてください。



- A.赤色直光着色品種(紅伊豆等)
- B.黒色及び散光品種(キャンベル、デラウエアなど)
- C.白色品種(ナイアガラなど)
- D.副梢葉(房の付近1～3枚)

図2 適度な棚の明るさを示す葉の配列模

3 病虫害防除

病虫害の発生状況に応じて防除を実施しますが、収穫が間近になってきております。農薬の使用基準（収穫前日数、散布濃度、使用回数）に十分留意してください。

薬剤によっては、果粉の溶脱、果面の汚れなど品質を損ねることがありますので、薬剤を選択する際は注意してください。

次号は8月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しを良くし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう